



TITLE:

高等教育研究開発推進センター業績(2005年4月～2006年3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

高等教育研究開発推進センター業績(2005年4月～2006年3月). 京都大学
高等教育研究 2006, 12: 237-254

ISSUE DATE:

2006-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/54190>

RIGHT:

高等教育研究開発推進センター業績

（2005年4月1日～2006年3月31日）

※第12号より年度ごとの業績とした。このため、第一部門の業績については半年分（2005年4月1日～2005年8月31日）が第11号と重複している。

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

田中 每実（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・田中每実 2005.5 「絶句と発語の間—臨床的人間形成論の生成をめぐって—」『教育哲学研究』第91号、1-6頁

【その他の著作物】

- ・田中每実 2005.11 「巻頭言」『大学教育学会誌』第27巻 第2号、1頁
- ・田中每実 2005.11 「シンポジウムⅡ〈大学教育改革と大学教育学会〉を司会して」『大学教育学会誌』第27巻 第2号、51-2頁
- ・田中每実 2005.12 「図書紹介／山内乾史『現代大学教育論』」『教育学研究』第72巻第4号、135-6頁
- ・田中每実 2006.3 「大学教育の学校化と脱学校化」2005年度京都大学大学院教育学研究科『国際シンポジウム事業報告書』、83-6頁
- ・田中每実 2006.3 『ファカルティ・ディベロップメント推進事業実施報告書』鳴門教育大学

【学会発表】

- ・田中每実 2005.8 「ライフサイクルと世代連関における青年」日本教育学会第67回大会大会（公開シンポジウム「現代青年論の再考」）、東京学芸大学
- ・田中每実 2005.11 「大学教育の学校化と脱学校化」京都大学教育学研究科第2回国際シンポジウム：大学教育の知の彼方へ、京都大学
- ・田中每実 2005.11 「FDの現状と課題」大学教育学会2005年度課題研究集会（シンポジウム1「教育支援コミュニティづくりとしてのFD」のパネリストとして）、新潟大学
- ・田中每実 2005.12 「大学教育研究の失敗」、日本学術振興会・人文社会科学振興プロジェクト「日本の教育システム」研究グループ「教育研究（の失敗）」研究サブグループ研究会、慶應義塾大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「人間形成論A」（前期）、「ライフサイクルと教育B」（後期、分担）
- ③大学院教育：「高等教育論演習ⅠA・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科、前・後期、共同）

【学外】

- ・愛知県立看護大学大学院非常勤講師「教育学特論」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・京都大学高等教育研究開発推進センター第1部門部門長
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会協議員

- ・オープン・コースウェアプロジェクトWG委員

【社会活動】

- ・教育哲学会常任理事・編集委員
- ・教育思想史学会理事
- ・大学教育学会常任理事
- ・山梨学院大学附属小学校客員研究員
- ・「地域ネットワークFD“樹水”」諮問委員
- ・文部科学省大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員
- ・日本学術振興会科学研究費補助金審査（第2段審査第1部会総合領域小委員会）委員

【講演】

- ・田中每実 2005.6 「FDと大学教育改革」New Education Expo 2005
- ・田中每実 2005.7 「FDの現状と課題」石川県立大学第1回全学セミナー

大塚 雄作（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・大塚雄作 2005.4 「学習コミュニティ形成に向けての授業評価の課題」溝上慎一・藤田哲也編『心理学者、大学教育への挑戦』、1-37頁

【その他の著作物】

- ・大塚雄作 2006.3 「工学部授業アンケートの概要」『京都大学高等教育叢書23 平成16年度採択特色GP報告書 相互研修型FDの組織化による教育改善2004-2005』、175-193頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「教育評価の基礎Ⅰ」（前期）、「教育評価の基礎Ⅱ」（後期）、「ライフサイクルと教育A」（前期、分担）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育論演習ⅡA・B」（教育学研究科、前・後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・大学評価委員会委員
- ・大学評価小委員会委員
- ・大学評価支援室室長（2005年4月～2005年9月）
- ・大学評価支援室副室長（2005年10月～）
- ・学術情報拠点発明評価委員会委員
- ・第12回京都大学大学教育研究フォーラム実行委員長

【社会活動】

- ・日本高等教育学会研究紀要編集委員
- ・大学教育学会2005年度第27回大会実行委員長
- ・日本テスト学会監事
- ・日本テスト学会テスト・スタンダード作成委員会委員
- ・文部科学省「大学への早期入学及び高等学校・大学間の接続の改善に関する協議会」委員
- ・文部科学省高等教育局大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員

- ・経済産業省主催「理工系人材確保のための大学教育改革研究会」委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部 調査研究協力者
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 短期大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構 評価・審査委員会委員長
- ・財団法人大学コンソーシアム京都 FD フォーラム企画検討委員会委員
- ・最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員

【講演】

- ・大塚雄作 2005.4 「『国際連携』の評価」『大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究』研究会、大阪大学
- ・大塚雄作 2005.5 「大学評価——大学の自律的發展に資する評価のあり方」中華人民共和国大学管理運営向上プログラム、立命館大学
- ・大塚雄作 2005.7 「大学評価——大学の自律的發展に資する評価のあり方」中華人民共和国大学管理運営向上プログラム、立命館大学
- ・大塚雄作 2005.8 「高等教育の質の向上を目指す評価のあり方——“改善”と“説明責任”の狭間で」IDE セミナー、札幌ガーデンパレス
- ・大塚雄作 2005.9 「大学評価——大学の自律的發展に資する評価のあり方」中華人民共和国大学管理運営向上プログラム、立命館大学
- ・大塚雄作 2005.10 「研究としての授業評価・教育としての授業評価—— Academic Learning Community の形成に向けて」シンポジウム「授業評価とファカルティデベロップメント（FD）——授業評価をどのように教育実践の改善に結びつけるか?」、東京大学教養教育開発機構
- ・大塚雄作 2005.11 「大学評価——大学の自律的發展に資する評価のあり方」中華人民共和国大学管理運営向上プログラム、立命館大学
- ・大塚雄作 2005.11 「学生による授業評価の新展開——授業の改善と説明責任の両立を目指して」SCS 活用セミナー 2005「大学職員のための教務セミナー」、メディア教育開発センター
- ・大塚雄作 2005.11 「授業評価から授業改善へ——学問共同体形成を目指して」島根県立大学 FD セミナー
- ・大塚雄作 2006.3 「大学評価——大学の自律的發展に資する評価のあり方」中華人民共和国大学管理運営向上プログラム、立命館大学
- ・大塚雄作 2006.3 「大学院大衆化時代の大学院教育——専門知をどう育てるか」第11回京都 FD フォーラム第4分科会コーディネーター、京都キャンパスプラザ

松下 佳代（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・松下佳代 2005.8 「習熟とは何か——熟達化研究の視点から——」梅原利夫・小寺隆幸編著『習熟度別授業で学力は育つか』明石書店、140-182頁

【論文】

- ・松下佳代 2005.4 「学生による授業評価—改善と説明責任—」『日本物理学会誌』第60巻第4号、297-300頁
- ・松下佳代 2006.3 「非 IRE ディスコースにおける教師の役割—エンパワメントとしての授業—」平成15～17年度科学研究費補助金（基盤研究（b）（1））研究成果報告書『ライフヒストリー的アプローチを活かした総合的な教師の力量研究—新たな教員養成プログラムの開発を見据えて—』（研究代表者 三重大学教育学部森脇健夫）、107-121頁

【その他の著作物】

- ・松下佳代 2005.5 「百ます計算をこえて—パフォーマンス・アセスメントの試み—」『研究と実践』第94号、数学教育協議会、3-22頁

- ・松下佳代 2005.5 「学力・学習・評価—PISAとPA—」『教育』第712号、60-67頁
- ・松下佳代 2005.5 「パフォーマンス・アセスメント」『「見えない学力の評価」の研究』（教育調査研究所研究紀要第85号）、66-67頁
- ・松下佳代 2005.8 「問われる学力の中身と評価」『ひろば・京都の教育』第143号、25-30頁
- ・K. Takagi, K. Matsushita, & Y. Shoy 2005.9 Emergence of “learning community” and “learners as singularity” through boundary crossing. 1st ISCAR (International Society for Cultural and Activity Research) Congress Program, 260-261
- ・松下佳代 2006.2 「評価の枠組み（特集 世界から見た日本の数学教育）」『数学教室』第651号、12-17頁
- ・松下佳代 2006.3 「授業アンケートの実施と活用」『京都大学高等教育叢書23 相互研修型FDの組織化による教育改善2004-2005』、15-39頁
- ・松下佳代 2006.3 「図書紹介」（「未来の学力と日本の教育」シリーズ 久富善之・田中孝彦編著『第1巻 希望をつむぐ学力』、庄井良信・中嶋博編著『第3巻 フィンランドに学ぶ教育と学力』）『カリキュラム研究』第15号、99-102頁

【学会発表】

- ・松下佳代 2005.9 「パフォーマンス・アセスメントを通して」日本心理学会第69回大会（公開シンポジウム「教育のアカウンタビリティを問う」）、慶應義塾大学
- ・松下佳代 2005.9 「パフォーマンス・アセスメント（PA）」日本教育心理学会第47回総会（自主企画シンポジウム「学力評価法の新たな可能性」）、浅井学園大学
- ・K. Takagi, K. Matsushita, & Y. Shoy 2005.9 Emergence of “learning community” and “learners as singularity” through boundary crossing. 1st ISCAR (International Society for Cultural and Activity Research) Congress. Universidad de Sevilla, Spain.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育A」（前期、分担）、「学力・学校・社会」（後期）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科、前・後期、共同）、「高等教育論演習ⅢA・B」（教育学研究科、前・後期）

【学外】

- ・神戸大学大学院総合人間科学研究科非常勤講師「教授方法特論」（前期集中）
- ・福井大学大学院教育学研究科非常勤講師「教育方法特論」（後期集中）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・点検・評価実行委員会委員
- ・KUINS 利用負担金検討委員会委員
- ・学術情報メディアセンター学内共同利用運営委員会委員

【社会活動】

- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事
- ・教育目標・評価学会理事、編集委員
- ・日本工学教育協会 編集・出版委員会幹事
- ・お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」第3プロジェクト算数・数学学力調査問題作成グループリーダー
- ・大学コンソーシアム京都・京都高等教育研究センター研究員
- ・学校図書算数教科書著作者

【講演】

【FD 関係】

- ・松下佳代 2005.7 「FD でいま何が課題になっているか」三重大学教育学部 FD
- ・松下佳代 2005.7 「特色 GP『相互研修型 FD の組織化による教育改善』活動報告 (第2回)」京都大学高等教育研究開発推進センター第69回公開研究会
- ・松下佳代 2005.7 「学生による授業評価について」2005/2006 KUINEP 担当者懇談会
- ・松下佳代 2005.12 「大学で教えるということ」第2回8大学工学系博士学生フォーラム
- ・松下佳代 2005.11 「学生による授業評価—改善と説明責任—」日本大学理工学部 FD 講演
- ・松下佳代 2006.3 「FD でいま何が課題なのか？」福井大学教育地域科学部第4回 FD 研究会

【その他】

- ・松下佳代 2005.5 「算数・数学の学力とは？—パフォーマンス・アセスメントを通して—」九州地区数学教育協議会研究会
- ・松下佳代 2005.6 「学力問題へのもう一つのアプローチ—パフォーマンス・アセスメントへの誘い—」石川県数学教育協議会 JUNE 研究会
- ・松下佳代 2005.8 「学びを可視化する」第2回教育のアクションリサーチ研究会
- ・増島高敬・松下佳代 2005.8 「学力低下を問う—OECD-PISA とお茶の水女子大調査-PA—」数学教育協議会第53回全国研究大会
- ・松下佳代 2005.8 「算数・数学の学力とは？—パフォーマンス・アセスメントを通して—」第55次湘北教育研究集会
- ・松下佳代 2005.10 「PA から読みとれる学力のすがた」酒田市研修会
- ・松下佳代 2005.12 「思考・コミュニケーション・リテラシー」目黒区立菅刈小学校研修会
- ・松下佳代 2005.12 「状況の中で現れる学力」第61回初等教育全国協議会
- ・松下佳代 2006.2 「基調報告を受けて—大学生の漢字力と漢字教育—」京都大学人文科学研究所オープンフォーラム「漢字教育の現場から」
- ・松下佳代 2006.2 「学力の『質』を評価する—パフォーマンス・アセスメントの理論と方法—」兵庫教育大学
- ・松下佳代 2006.2 「学力調査から見えてくるもの—OECD/PISA ともう一つの評価 (PA) —」滋賀県民主教育研究所2005年度研究集会

【その他】

- ・松下佳代 2005.12 「学力調査から見えてくるもの—PISA と PA—」平成17年度膳所高校—京都大学高大連携プロジェクト公開講座
- ・松下佳代 2006.3 「相互研修型 FD の組織化による教育改善 (中間成果報告・第3回)」第12回大学教育研究フォーラム (ラウンドテーブル)

大山 泰宏 (助教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・大山泰宏 2005.5 「連載：日常性の心理療法(9)—沈黙する身体 (私と身体1)」『こころの科学』121号、日本評論社、120-126頁
- ・大山泰宏 2005.7 「連載：日常性の心理療法(10)—トラウマとしての身体 (私と身体2)」『こころの科学』122号、日本評論社、121-127頁
- ・大山泰宏 2005.9 「連載：日常性の心理療法(11)—私の歴史が生まれるとき (心理療法と語り1)」『こころの科学』123号、日本評論社、164-171頁
- ・大山泰宏 2005.11 「連載：日常性の心理療法(12)—語りから生成する「私」 (心理療法と語り2)」『こころの科学』124号、日本評論社、113-119頁

- ・ 大山泰宏 2006. 1 「連載：日常性の心理療法⑬—日常性からの呼び声」『こころの科学』125号、日本評論社、94-101頁

【その他の著作物】

- ・ 大山泰宏 2006. 1 項目「教室」「心理療法」『音の百科事典』丸善、355-356頁、550-552頁
- ・ 大山泰宏 2006. 3 「癒しの文化を「私」が語るということ」「癒し」は可能なのか」平成15-17年文部科学省科学研究費補助金 基礎研究（C）(1)研究代表者 皆藤章『心理療法と癒しの文化をめぐる臨床心理学の開発的研究』研究成果報告書、194-201頁、235-241頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期、分担）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 B」（後期、共担）、「高等教育文献講読演習」（後期）、「臨床心理学演習」（後期より参加、共担）、「臨床教育学演習Ⅱ」（後期、共担）

【学外】

- ・ 京都第二赤十字専門学校 教育キャンプ講師（非常勤）2006年 3 月

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ 心理臨床学会大学院カリキュラム委員会委員
- ・ 京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践センター心理教育相談室スタッフ
- ・ 医療法人竹村診療所 非常勤カウンセラー

【講演】

- ・ 大山泰宏 2005.11 「高等教育における教育評価システムの構築—評価の主観性を積極的に活かし活動改善に直結させる方略—」文部科学省高等教育局医学教育課 平成17年度看護学教育ワークショップ特別講演、千葉大学
- ・ 大山泰宏 2006. 1 「学びにつながる大学授業のコミュニケーション」教室内コミュニケーション研究会、島根県立大学
- ・ 大山泰宏 2006. 1 「心理療法の前提の検討」島根県臨床心理士会 拡大研修会
- ・ 大山泰宏 2006. 1 島根県臨床心理士会 拡大研修会 事例検討会講師
- ・ 大山泰宏 2006. 3 「授業評価は本当に教育改善につながるのか」福井大学医学部看護学科 FD 講演、福井大学
- ・ 大山泰宏 2006. 3 「看護教育における教育評価システムの構築について」久留米大学医学部看護学科 FD 講演、久留米大学

【その他】

- ・ 大山泰宏 2005.11 フィールド科研シンポジウム「体験の語りを巡って」指定討論
- ・ 大山泰宏 2006. 3 京都大学第12回大学教育研究フォーラム ラウンドテーブル企画「遠隔授業を通して見えてきた大学教育の未来」指定討論
- ・ パリ第 8 大学教育学部高等教育研究センター（フランス）客員研究員（2004年10月～2005年 9 月）

溝上 慎一（助教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・ 溝上慎一・藤田哲也編 2005. 4 『心理学者、大学教育への挑戦』ナカニシヤ出版
- ・ 溝上慎一 2005. 4 「アイデンティティと発達—社会に身をおいて自分であるということ—」麻生武・浜田寿美男編『よくわかる臨床発達心理学』ミネルヴァ書房、50-51頁
- ・ 溝上慎一 2005. 9 「形成としての青年期発達論—自己形成とアイデンティティ形成との差異—」梶田毅一編『自

己意識研究の現在 2』ナカニシヤ出版、9-34頁

- ・尾崎仁美・溝上慎一 2005.9 「大学生における将来の見通しの探求理由にみられる学年の文脈」梶田叡一編『自己意識研究の現在 2』ナカニシヤ出版、157-182頁
- ・溝上慎一 2006.3 「わが国の大学教育と「大学基礎講座」—改増版によせて—」藤田哲也編『大学基礎講座—充実した大学生活をおくるために—[改増版]』北大路書房、初版2002年、207-215頁
- ・溝上慎一 2006.3 『大学生の学び・入門—大学での勉強は役に立つ!—』有斐閣アルマ

【学会発表】

- ・Mizokami, S. 2005.8 「The spurt of self-construction as a self-generative system」XIIth European Conference on Developmental Psychology, Spain: Universidad de La Laguna
- ・溝上慎一 2005.9 「指定討論」日本心理学会第69回大会（平井美佳・竹尾和子企画 WS「対人関係における自己—実証的にどう扱うか?—」）、慶應義塾大学
- ・溝上慎一 2005.11 「社会的・時代的文脈から見た現代青年のインサイド・アウトのダイナミックス—「啓蒙」としての近代教育の終焉に焦点を当てて—」日本青年心理学会第13回大会（大会企画シンポジウム「青年の集団から個へ」）、静岡大学
- ・溝上慎一 2005.11 「指定討論」大学教育学会2005年度課題研究集会（シンポジウムⅡ「初年次教育・導入教育のアイデンティティーキャリア教育と学士課程教育との関係を考える—」）、新潟大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「現代の大学・大学生論 A」（分担）、「現代の大学・大学生論 B」
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期、共担）

【学外】

- ・大手前大学社会文化学部非常勤講師「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」
- ・大手前大学人文科学部非常勤講師「人格心理学」
- ・筑波大学大学院心理学研究科・集中講義

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会委員
- ・少人数教育（ポケットゼミ）部会委員

【社会活動】

- ・日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員
- ・名古屋大学高等教育研究センター客員助教授
- ・広島大学高等教育研究開発センター客員研究員

【講演】

- ・溝上慎一 2005.6 「大学が高校生に期待すること—昨今の大学と社会の時代的变化をふまえて—」滝高校講演
- ・溝上慎一 2005.7 「時代が求める学習様式と大学教育改革が目指す学生の学習様式との相違」大学生協連・ビジョンとアクションプラン改定第2回講演会
- ・溝上慎一 2005.8 「加速する学習力—自ら学びとる勉強、そのための環境づくり—」学研 GIC モーラステーション主催講演会
- ・溝上慎一 2005.9 「変動する社会・大学と大学生協の役割」大学生協連・理事長専務理事セミナーシンポジウム・パネリスト
- ・溝上慎一 2005.9 「システム要素としてのFDを目指して—FDの最先端と課題—」三重大学人文学部FD講演

- ・溝上慎一 2005.10 「大学教育改革の推進的立場から見た学生のキャリア形成支援の位置」大学生協連・全国キャリア形成支援活動セミナー分科会講演
- ・溝上慎一 2005.11 「やりたいことを実現するための勉強のしかた—大学生の学びの実態から見て—」川越女子高校講演
- ・溝上慎一 2005.11 「学期途中の評価をどうするか」徳島大学大学開放実践センター・第3回FDラウンドテーブル
- ・溝上慎一 2005.11 「大学生の学習実態から高等学校での指導を考える—時代が求める学習様式の視点から—」山形県教育庁進学指導研究協議会講演
- ・溝上慎一 2005.12 「学生による授業評価をいかにFDにいかすか」京都光華女子大学FD講演会
- ・溝上慎一 2005.12 「時代が求める学習様式と大学教育改革が目指す学習様式は何が異なるのか」名古屋大学高等教育研究センター客員セミナー講演
- ・溝上慎一 2006.2 「時代が求める学生の学習様式と大学教育の役割—ポスト近代教育への移行—」秋田大学教育文化学部FD推進委員会主催FDワークショップ・基調講演
- ・溝上慎一 2006.3 「大学における初年次／導入教育と『言語と平和』」京都外国語大学研修会コメント
- ・溝上慎一 2006.3 「京都大学の事例—教員・学生相互の変革を目指す教育交流会プロジェクトの教育改革—」大学コンソーシアム京都主催第11回FDフォーラム・分科会報告
- ・溝上慎一 2006.3 「大学でも活かされる勉強のしかたとは?—時代の変化と大学生の実態から—」進研ゼミ高校講座・難関国立大・私立大合格特別講義 & 大学個別相談会・講演会

酒井 博之 (助手)

1. 研究業績

【論文】

- ・Ando, Y., and Sakai, H. 2005.12 Theory of acoustics design for an opera house and a design proposal, *J. Temporal Des. Arch. Environ.* 5, 1-5.
- ・酒井博之、田中毎実 2005.12 「遠隔連携ゼミにおける学びの構造の構造化」『京都大学高等教育研究』第11号、33-66頁

【その他の著作物】

- ・酒井博之、山田剛史 2005.6 「平成16年度採択特色GP「相互研修型FDの組織化による教育改善」活動報告 2004年度工学部卒業研究調査プロジェクト (速報版)」京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・酒井博之 2006.1 「コンサートホール*」「オペラハウス**」「残響」(他19項目) 音の百科事典編集委員会編『音の百科事典』丸善、51、107、130-134、347-348、380-381、457-461、494-496、527、528-529、629、669-672、678-681、769-770、840-841、880-883、895、930、938-940、995-1000頁 (*: 安藤四一、酒井博之、**: 酒井博之、佐藤伸一)
- ・酒井博之、山田剛史 2006.3 「卒業研究調査プロジェクト」『平成16年度採択特色GP報告書 相互研修型FDの組織化による教育改善2004-2005』京都大学高等教育叢書 23、65-134頁

【学会発表】

- ・酒井博之 2006.3 「オンラインとオフライン、同期と非同期の狭間で」山田剛史・酒井博之 (企画ラウンドテーブル)『遠隔授業を通して見えてきた大学教育の未来』第12回大学教育研究フォーラム、138-139頁、京都大学
- ・酒井博之・山田剛史 2006.3 「卒業研究調査—調査結果から何が言えるか—」田中毎実 (企画ラウンドテーブル)『相互研修型FDの組織化による教育改善 (中間報告・第3回)』第12回大学教育研究フォーラム、148-149頁、京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ③大学院教育:「高等教育開発論研究A・B」(教育学研究科、前・後期、共担)

【学外】

- ・ 京都コンピュータ学院非常勤講師「音響技術 1・2」「MIDI 1・2」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員

【社会活動】

- ・ 特定非営利活動法人音の文化研究会理事

【その他】

- ・ 酒井博之、山田剛史 2005.12 「卒業研究調査の結果と分析」工学部・高等教育研究開発推進センター共催 第1回工学シンポジウム
- ・ 酒井博之、山田剛史 2005.7 「工学部「卒業研究調査」経過報告」京都大学高等教育研究開発推進センター第69回公開研究会『特色 GP『相互研修型 FD の組織化による教育改善』活動報告（第2回）』

第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

高橋 由典（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・ 高橋由典 2005.5 「贈与制度の身体論的把握—クラとボトラッチ」『フォーラム現代社会学』第4号、82-95頁
- ・ 高橋由典 2005.5 「体験選択の動的な性質」『ソシオロジ』第50巻1号（153号）、3-16頁
- ・ 高橋由典 2006.3 「体験選択と開いた社会性」『社会学評論』第56巻4号（224号）、830-845頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナール A・B」「社会学基礎論」
- ②学部教育：「人間行動論」、「人間関係原論演習 A・B」（以上、総合人間学部）、「社会学特殊講義」（文学部）
- ③大学院教育：「人間社会基礎論」「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論Ⅰ」「社会行動論演習Ⅱ」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」「人間社会論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）、「社会学特殊講義」（文学研究科）

【学外】

- ・ 龍谷大学社会学部 社会学特殊講義、共通科目「社会学入門」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進機構副機構長（2005.10～）
- ・ 全学共通教育システム委員会委員
- ・ 教養教育専門委員会委員
- ・ A 群科目部会部会長（～2006.3）
- ・ 高等教育研究開発推進機構執行協議会委員
- ・ 点検評価実行委員会委員

吉田 純（教授）

1. 研究業績

【学会発表】

- ・吉田純 2005.12 「CMC空間の社会的意味」(情報・史科学ワークショップ「コミュニケーション、知識、ソフトウェア」、京都大学)
- ・吉田純 2005.12 「メディアとしてのクルマ—— ITS の先にあるもの」(「フリーディスカッション産学連携」京都大学国際融合創造センター・日産自動車技術交流会、京都大学)

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「社会学基礎論」「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナールA・B」
- ②学部教育：「社会情報論」「社会情報論演習A・B」（以上、総合人間学部）、「社会学特殊講義」（文学部）
- ③大学院教育：「人間社会基礎論」「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論2」「社会行動論演習2」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」「人間社会論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）、「社会学特殊講義」（文学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会委員
- ・教養教育専門委員会A群科目部会委員
- ・教養教育専門委員会B群科目部会委員

【社会活動】

- ・日本社会情報学会 会誌編集委員

【講演】

- ・吉田純 2006.2 「リスク社会としての現代社会」(集団力学研究所・西日本新聞社 第23回シンポジウム「減災とリスク・マネジメント」基調講演、福岡市エルガーラホール)

小田 伸午（教授）

1. 研究業績

【著書】

【共著】

- ・木寺英史、小田伸午 2006.5 『剣士なら知っておきたい「からだ」のこと』大修館書店

【論文】

- ・佐野奈緒子、小田伸午 2005.9 「立位姿勢における安定限界の足圧中心分析」『京都体育学研究』第21巻、3-9頁
- ・Fujii, S. and Oda, S. 2006 Tapping speed asymmetry in drummers for single-hand tapping with a stick. Percept Motor Skills 103: 265-272.

【学会発表】

- ・藤井進也、小田伸午 2005.7 「タッピング速度の左右差はドラム演奏家ではみられない—スティックを用いた片手最速タッピング研究—」日本運動生理学会第13回大会、東京工業大学
- ・山田陽介、増尾善久、小田伸午、西脇友子 2005.9 「要介護高齢者のADL低下と下肢の浮腫との関連」日本体力医学会第60回大会、川崎医療福祉大学
- ・伊藤慎哉、来田宣幸、小田伸午 2005.9 「投運動における球速と正確性の関係」日本体力医学会第60回大会、川崎医療福祉大学
- ・國部雅大、小田伸午 2005.11 「眼球運動による視野情報の変化が両手ポインティング動作の時間的・空間的制御

に与える影響」日本体育学会第56回大会、筑波大学

- ・進矢正宏、宮本直和、國部雅大、小田伸午 2005.11 「自発的な一歩踏み出し動作を中断する際の下肢の筋電図活動」日本体育学会第56回大会、筑波大学
- ・藤井進也、小田伸午 2005.11 「ドラム奏者は両手の協調性が優れている—スティックを用いた両手交互最速タッピング—」日本体育学会第56回大会、筑波大学
- ・横山慶一、山田陽介、尾崎禎亮、進矢正宏、小田伸午 2005.11 「下肢筋力・敏捷性・バランス保持能力が高齢者の歩行能力に及ぼす影響」日本体育学会第56回大会、筑波大学
- ・尾崎禎亮、山田陽介、小田伸午、松村吉浩、木村みさか 2005.11 「三軸加速度計を用いた高齢者の歩行運動の評価」日本体育学会第56回大会、筑波大学
- ・宮本直和、小田伸午 2005.11 「Mechanomyogram による筋張力— muscle force —の評価」日本体育学会第56回大会、筑波大学
- ・横山慶一、山田陽介、尾崎禎亮、進矢正宏、小田伸午 2005.11 「下肢筋力・敏捷性・バランス保持能力が高齢者の歩行能力に及ぼす影響」日本体育学会第56回大会、筑波大学
- ・横山慶一、山田陽介、尾崎禎亮、則安梨才、松村吉浩、川口亜紀、木村みさか、小田伸午 2006.1 「健常高齢者の歩行リズムおよび指タッピングリズムの解析」日本体力医学会近畿地方会
- ・勝原洋二、小田伸午 2006.3 「早くかつ高く跳ぶ動作におけるバイオメカニクス研究」京都体育学会第135回大会、京都薬科大学
- ・土屋真司、小田伸午 2006.3 「野球の投手の投球はどのような分布になるのか？」京都体育学会第135回大会、京都薬科大学
- ・則安梨才、山田陽介、横山慶一、尾崎禎亮、松村吉浩、木村みさか、小田伸午 2006.3 「高齢者における身体活動記録表及び3軸加速度計を用いた身体活動量測定法の妥当性の研究」京都体育学会第135回大会、京都薬科大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「運動科学」「スポーツ実習（二軸動作）」「自主研究ゼミ」
- ②学部教育：「運動制御ゼミ IA」「運動制御ゼミ IB」「運動制御実験」「認知行動科学入門」
- ③大学院教育：「身体運動学」「行動制御学演習1」「認知・行動科学基礎論」「共生人間学研究 I」「共生人間学研究 II」「共生人間学特別研究 I」「共生人間学特別研究 II」「行動制御学特別演習1」「行動制御学特別演習2」「認知・行動科学特別セミナー」

3. その他の活動

【学内】委員

- ・全学共通教育システム委員会
- ・基礎教育専門委員会
- ・教養教育専門委員会
- ・B群科目部会
- ・D群科目部会（委員長）

【社会活動】

- ・日本体育学会会員
- ・京都体育学会副会長
- ・日本体力医学会幹事
- ・日本運動生理学会会員
- ・日本バイオメカニクス学会会員
- ・日本トレーニング科学会会員

- ・高校大学連携：京都府立向陽高校にてスポーツ科学の授業担当
大阪市立桜宮高校にてスポーツ科学の授業担当

水光 雅則（教授）

1. 研究業績

【その他の著作物】

- ・水光雅則 2006.1 「英語のカリキュラム開発についての考え方」『学術研究に資する英語教育』（京都大学における英語新カリキュラム）』京都大学高等教育研究開発推進機構、12-41頁（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0238.pdf>）
- ・土肥充、高橋秀夫、ロリーン・パカリワガン、土屋俊、竹蓋幸生、草ヶ谷順子、水光雅則、鈴木英夫 2006.3 「海外取材放送ライブラリーを使用した簡易型 CALL 教材の開発」、平成16年度～平成17年度科学研究費補助金基盤研究（C）(2)、課題番号16500576、研究成果報告書、48頁。

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語Ⅰ・Ⅱ」
- ②学部教育：「英語構造・表現論」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「外国語習得論」「外国語教育基礎論」など（人間・環境学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進機構 外国語教育専門委員会
- ・高等教育研究開発推進機構 システム委員会

【講演】

- ・水光雅則 2005.12 「英語のカリキュラム開発についての考え方」特色ある大学教育支援プログラムシンポジウム『外国語教育の再構造化』基調講演、京都大学

【その他】

- ・国立七大学外国語教育連絡協議会
- ・「京都大学の平成18年度からの英語カリキュラム」（2005.7 成案）の企画と実施統括
- ・京大方式の自律学習型 CALL の設計と実施統括（履修定員1,600名）
- ・「新 M1 のオリエンテーション」人間・環境学研究科 外国語教育論講座
- ・「修論に向けて—研究計画書について」人間・環境学研究科 外国語教育論講座
- ・「修論に向けて—研究計画書についての FAQ」人間・環境学研究科 外国語教育論講座
- ・「外国語教育論講座入学希望者向けの解説」

田地野 彰（教授）

1. 研究業績

【論文】

【共著】

- ・Ronald, J. and A. Tajino. 2005.6 “A comparison of paper and electronic monolingual dictionaries: location, comprehension, and retention of secondary senses.” *ASIALEX 2005: Words in Asian Cultural Contexts*, Asian Association for Lexicography, Republic of Singapore, pp.255-261.
- ・Tajino, A. and C. Smith. 2005.10 “Exploratory practice and soft systems methodology.” *Language Teaching Research*, Vol.9, No.4, Edward Arnold/Hodder, U.K., pp.448-469.

【その他の著作物】

【単著】

- ・ 田地野彰 2005.9 「京都大学の英語教育が変わる―「学術的教養」と「学術的言語技能」の融合―」『英語教育』「英語教育時評」(Vol.57. No.4) 開隆堂

【共著】

- ・ 田地野彰 2006.2 「文部科学省検定済中学校英語教科書『Sunshine English Course 1, 2, 3』」開隆堂

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語 IA・B」「英語 IIA・B」
- ②学部教育：「英語構造・表現論演習 A」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「共生人間学 I・II」「教育言語学 2」「外国語教育基礎論」「外国語教育基礎論演習」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）「共生人間学特別研究 I・II」「外国語教育論特別演習 1・2」「外国語教育論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）

【学外】

- ・ 京都府立大学「英語 I」「英語 II」
- ・ 京都府立向陽高校（高大連携）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 全学共通教育システム委員会 外国語教育専門委員会委員
- ・ 外国語教育再構造化委員会委員
- ・ 情報環境機構 CALL システム運用委員会委員

【社会活動】

- ・ 日英国際英語教育セミナー（オックスフォード大学セント・キャサリン・カレッジ）運営委員会委員

【講演】

- ・ 田地野彰 2005.9 マクミラン社主催「第2回英語辞書コロキウム」講演、京都外国語大学
- ・ 田地野彰 2005.12 第1分科会「大学における英語のカリキュラム開発―現状と展望―」パネリスト、京都大学「特色ある大学教育支援プログラム（GP）」シンポジウム：「これからの大学の外国語教育―カリキュラム開発の意義と実践―」
- ・ 田地野彰 2006.2 九州大学大学院言語文化研究院（主催）英語教育講演会「新しい英語教育の試み」講演

【その他】

- ・ 京都大学大学院人間・環境学研究科外国語教育再構造化委員会及び京都大学高等教育研究開発推進機構『C 群科目（外国語科目）に関する「学生授業アンケート」報告書（2004年度）』アンケート主幹。（2005.05）
- ・ 平成17年度国立七大学外国語教育連絡協議会（於：東京大学）。（2005.05）
- ・ 東京大学教養学部教養教育開発機構 CWP シンポジウム『ライティングを核とした発信型英語カリキュラム』での討議・報告。（2005.07）
- ・ 京都大学教育交流会プロジェクト（WG2）メンバーによる教員インタビュー「京都大学の新英語カリキュラムについて」。（2005.07）
- ・ 平成17年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム（於：九州大学）。（2005.10）
- ・ 京都大学「特色ある大学教育支援プログラム（GP）」シンポジウム：「これからの大学の外国語教育―カリキュラム開発の意義と実践―」、第1分科会「大学における英語のカリキュラム開発―現状と展望―」のコーディネーター。（2005.12）

田中 真介（助教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・田中真介 2005.7 「幼児期初期における対象操作活動と認知・言語機能及び社会的交流活動の発達連関」日本応用心理学会第72回大会発表論文集、23頁.
- ・田中真介 2005.7 「乳幼児期の発達と保育の基本視点」日本ピアジェ会会報、No.21、5－8頁
- ・Tanaka, S. et.al. 2005.6 “Developmental Relationships among Self Recognition, Subject-Object Interactivities and Social Communication in Human Infants and Young Chimpanzees.” FRAGM. IOANN. COLLECTA, The International Conference on Education: New Perspectives in Cognitive and Intercultural learning: from Preschool Education to Information Society, 417-431.

【学会発表】

- ・田中真介 2005.9 「幼児期初期における対象操作活動と認知・言語機能及び社会的交流活動の発達連関」日本応用心理学会第72回大会.
- ・田中真介 2005.11 「乳幼児期の健康と発達を保障するための療育支援の前提と方法：〔研究1〕予防接種による副作用被害の社会的発生機構と現行ワクチンの評価—京都・島根ジフテリア予防接種被害事件をもとに—、〔研究2〕乳幼児期における社会的交流活動の展開による自我及び自己信頼性の形成と療育指導」乳幼児精神保健研修研究会第9回全国大会.

2. 教育活動

【学内】

- ①②全学共通教育及び学部教育：高等教育研究開発推進機構において「発達論」「地域調査論基礎ゼミナール」「スポーツ指導法実習A・B」を担当。学生部と共催で全学向けに「救急看護法実習」及び「登山実習」を開催。
- ③大学院教育：大学院人間・環境学研究科への協力教員（兼任教員）として、「行動発達論2」「行動制御学演習2」を担当。

【学外】

- ・龍谷大学非常勤講師「生理心理学」
- ・滋賀医科大学非常勤講師「心理学概論」「生涯発達論」
- ・花園大学非常勤講師「生命科学Ⅰ・Ⅱ」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会
- ・少人数教育部会
- ・D群科目部会 各委員

【社会活動】

- ・日本応用心理学会理事、日本生理学会、日本霊長類学会 各会員。
- ・京都市立小学校で2006年度から虫歯予防のための「フッ化物洗口」が導入されるにあたり、重要な副作用情報として、フッ素によるカルシウム代謝異常に伴う骨折・がん・染色体異常の発生率の増加などの医学的研究資料を提供。
- ・そのほか国内では、岩手県、栃木県、埼玉県、東京都、愛知県、滋賀県、京都府、兵庫県、沖縄県ほか各地の保育園・幼稚園・小中学校・養護学校を訪問し、発達・教育相談活動及び健康相談活動を実施。
- ・海外では、チェコ共和国、英国、及びトルコ共和国の小学校を訪問し発達と教育に関するフィールドワークを行う。

【講演】

- ・兵庫県学校保健研究協議大会にて基調講演
- ・沖縄県・浦添市立宮城小学校にて学校保健講演会

【その他】

- ・学内では、学生部スポーツ指導・相談室の専任相談員及び保健管理センター非常勤講師として、運動指導相談及び健康生活相談を担当。また、高等学校—大学連携教育活動に協力し講義を担当。

第三部門（情報メディア教育開発部門）

小山田 耕二（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・ Jorji Nonaka, Nobuyuki Kukimoto, Yasuo Ebara, Masato Ogata, Takeshi Iwashita, Masanori Kanazawa, and Koji Koyamada, 2005 “Hybrid Image Composition Mechanism for Enhancing Volume Graphics Cluster,” IEICE Trans. Inf. & Syst., Vol. E88-D, No.11, pp. 2582-2590.
- ・ 中西徹、岡本圭司、小寺秀俊、小山田耕二 2005.9 “熱伝導法則を応用した応答曲面法の評価関数への適用による熱設計パラメータ最適化に関する研究”、日本シミュレーション学会誌、Vol.24、No.3、pp. 69-77.
- ・ 坂本尚久、安原幸生、久木元伸如、江原康生、小山田耕二 2005.8 “全方位型表示システム向け人物動作伝送システム”、電子情報通信学会和文論文誌、Vol.J88-DII、No.8、2005.
- ・ Nobuyuki KUKIMOTO, Jorji NONAKA, Yasuo EBARA and Koji KOYAMADA, 2005.5 “Scientific Visualization in Collaborative Virtual Environment with PDA-Based Control and 3D Annotation,” JSME International Journal Series B, Vol.48, No.2, pp.247-251.
- ・ Naohisa SAKAMOTO, Nobuyuki KUKIMOTO, Yukio YASUHARA, Yasuo EBARA and Koji KOYAMADA, 2005.5 “3D Modeling and Displaying System for Volume Communication,” JSME International Journal Series B, Vol.48, No.2, pp.252-258.
- ・ 鈴木喜雄、竹島由里子、大野暢亮、小山田耕二 2005.6 “球面サンプリング法を用いたボリュームレンダリングの没入型 VR 装置への適用” 日本バーチャルリアリティ学会論文誌、10巻2号、p.231-240
- ・ R. Matsukura, K. Koyamada, Y. Tan, 2005, “Tele-immersive Collaboration Environment With Three Dimensional Images: VizGrid,” Multimedia Cyberscape Journal Special Issue on Virtual Reality and Immersive Technology, Vol.3, No.1, pp.21-30
- ・ Jorji Nonaka, Nobuyuki Kukimoto, Yasuo Ebara, Takeshi Iwashita, Masanori Kanazawa, Koji Koyamada, 2005.4 “Volume Rendering Acceleration by using Object Boundary Projection and Parallel Processing”, Journal of IIEEJ, Vol.34, No.3, pp.245-255.

【学会発表】

- ・ Tetsuya Nabuchi, Yasuo Ebara, Naohisa Sakamoto, and Koji Koyamada, 2005.6, “An Experiment on Eye-to-Eye Contact using Auto-stereoscopic Display for Tele-immersive System,” M2USIC2005.
- ・ Jorji Nonaka, Koji Sakai, Koji Koyamada, and Masanori Kanazawa, 2005.11, “A Coarse-Grid Pre-Processing Based Load Balancing Scheme for Parallel Line Integral Convolution,” PDCS 2005, pp. 85-90.
- ・ N.Sakamoto, and K.Koyamada, 2005.11, “Particle Generation from User-specified Transfer Function for Point-based Volume Rendering,” IEEE Visualization Proceedings Compendium, pp.125-126.
- ・ K. Sakai, T. Azuma, K. Koyamada, and S. Tsutsumi, 2005.9 “Visualization of the Neural Pathway from DT-MRI Data Set: A Method for Setting Start Point of Neural Pathway,” VIIP’2005, pp.680-684.
- ・ Tomoki Minami, Koji Sakai, Koji Koyamada, 2005.9 “A Similarity Evaluation Method for Volume Data Sets by Using Critical Point Graph,” ISHPC-VI.
- ・ K. Sakai, N. Sakamoto, K. Koyamada, and T. Hasegawa, 2005.7 “Virtual Object Reconstruction in Real World,” INVITE’2005, pp.214-218.
- ・ T. Minami, K. Sakai, and K. Koyamada, 2005.7 “The Method to Evaluate a Similarity of Two Dimensional Data Using

Critical Point Graph,” INVITE’2005, pp.186-190.

- ・ Y. Yasuhara, N. Sakamoto, N. Kukimoto, Y. Ebara, and K. Koyamada, 2005.7 “Interactive Controller for 3D Contents with Omni-directional Display,” INVITE’2005, pp.167-171.
- ・ Takeru Kiyoshi, Takayuki Itoh, Koji Koyamada, Koji Sakai, Takeshi Iwashita, Masanori Kanazawa, 2005.5, “Visualization of Multi Parameter Hierarchical Data Using Automatic Dominant Parameter Determination Technique”, NICOGRAPH International 2005, pp.31-35.
- ・ Yasuhiro Watashiba, Koji Sakai, Koji Koyamada, Masanori Kanazawa, 2005.5, “Similarity Judgment Method of Volume Data by Critical Point Graph Using Directional Element Feature”, NICOGRAPH International 2005, pp.149-153.
- ・ Koji Sakai, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, Tatsuo Hasegawa, 2005.5 “3D Object Reconstruction by using Toy Blocks in Real World”, NICOGRAPH International 2005, pp.107-110.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：ボケゼミ「自主研究ゼミナール」、「情報フルーエンシ入門」
- ②学部教育：「基礎情報処理」「生体医療工学」「特別研究」
- ③大学院教育：「情報メディア工学特論」「電気工学特別研修1・2」「電気工学特別実験及演習1・2」

【学外】

- ・ 上智大学「ビジュアライゼーション」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進機構執行協議会委員
- ・ 全学共通教育システム委員会委員
- ・ 情報教育専門委員会委員

【社会活動】

- ・ 日本シミュレーション学会理事・編集委員会委員長
- ・ 可視化情報学会理事

日置 尋久（助教授）

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「情報学概論A」「プログラミングとその応用I」「コンピュータグラフィクス実習A、B」「情報科学B」（リレー講義）、「自主研究ゼミ」（ポケットゼミ）
- ②学部教育：「プログラミングとその応用I」「言語・数理情報科学入門」（リレー講義）、卒論指導（1名）
- ③大学院教育：「共生人間学研究I、II」「数理科学基礎論」「画像情報論」「数理情報論演習1、2」「共生人間学特別研究I、II」「数理情報論特別演習1、2」「数理科学特別セミナー」、研究生指導（1名）

【学外】

- ・ 京都ノートルダム女子大学「コンピュータネットワーク」
- ・ 京都ノートルダム女子大学「プログラミング概論」
- ・ 同志社女子大学「情報数学」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 情報教育専門委員会委員、同委員会WGメンバー

- ・教務事務電算管理運営委員会委員
- ・全学共通教育情報化システム小委員会委員
- ・情報環境機構教育用コンピュータシステム運用委員会委員
- ・図書館・教育用コンピュータシステム仕様策定委員会委員
- ・高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員会委員
- ・大学院人間・環境学研究科 全学共通教育実施委員会委員
- ・大学院人間・環境学研究科 ホームページ委員会委員

【その他】

- ・マルチメディア情報ハイディング研究会設立のための会合に参加 (2006.2)
- ・京都大学教育交流会 WG4 に参加
- ・総合人間学部 DNS サーバ、WWW サーバ、計算機演習室管理担当
- ・KUINS-II サブネット管理担当

酒井 晃二 (助手)

1. 研究業績

【論文】

- ・ Yasuhiro Watashiba, Koji Sakai, Koji Koyamada, Masanori Kanazawa, “Visualization of Similar Situation between Volume Datasets by Using Critical Point Graph and Character Recognition Technique”, The Journal of the Society for Art and Science, Vol.5, No.1, pp.11-17

【学会発表】

【国際会議・査読あり】

- ・ Koji Sakai, Naohisa Sakamoto, Tatsuo Hasegawa, Koji Koyamada, “3D Object Reconstruction by using Toy Blocks in Real World”, Proceedings of Nicograph international 2005, pp. 107-110
- ・ Yasuhiro WATASHIBA, Koji SAKAI, Koji KOYAMADA, Masanori KANAZAWA, “Similarity Judgment Method of Volume Data by Critical Point Graph Using Directional Element Feature”, Proceedings of Nicograph international 2005, pp. 149-153
- ・ Takeru Kiyoshi, Takayuki Itoh, Koji Koyamada, Koji Sakai, Takeshi Iwashita, Masanori Kanazawa, “Visualization of Multi Parameter Hierarchical Data Using Automatic Dominant Parameter Determination Technique”, Proceedings of Nicograph international 2005, pp. 31-35
- ・ Koji Sakai, Naohisa Sakamoto, Hasegawa, Koji Koyamada, “Virtual Object Reconstruction in Real World”, Proceedings of International Workshop on Network-based Virtual Reality and Tele-existence (INVITE 2005), pp. 214-218
- ・ Tomoki Minami, Koji Sakai, Koji Koyamada, “The Method to Evaluate a Similarity of Two Dimensional Data Using Critical Point Graph”, Proceedings of International Workshop on Network-based Virtual Reality and Tele-existence (INVITE 2005), pp. 186-190
- ・ Koji Sakai, Takashi Azuma, Koji Koyamada, Sadami Tsutsumi, “Visualization of the Neural Pathway form DT-MRI Set”, Proceedings of the 5th IASTED International Conference on Visualization, Imaging, and Image Processing (VIIP 2005), pp.680-684
- ・ Tomoki Minami, Koji Sakai, Koji Koyamada, “A Similarity Evaluation Method for Volume Data Sets by Using Critical Point Graph”, Proceedings of 6th International Symposium on High Performance Computing (ISHPC 2005), (to be published)
- ・ Jorji Nonaka, Koji Sakai, Masanori Kanazawa, Koji Koyamada, “A Coarse-Grid Pre-Processing Based Load Balancing Scheme For Parallel Line Integral Convolution”, Proceedings of the 17th IASTED International Conference on PARALLEL AND DISTRIBUTED COMPUTING AND SYSTEMS (PDCS 2005), pp. 85-90, 2005

- ・ Koji Sakai, Koji Koyamada, Yukiko Yamashita, Nobuaki Sarai, Keiichi Asakura, Akinori Noma, "Parameter Optimization Technique Using the RSM and Parameter Space Visualization for Cardiac Myocyte Model", Program handbook of the 4th Asia Pacific Bioinformatics Conference (APBC) 2006, Feb12-16, Taipei (Taiwan), p.36
- ・ Koji Sakai and Koji Koyamada, "New Discriminants for Detecting Degenerate Areas in DT-MRI", In Proceedings of the 4th IASTED International Conference on Biomedical Engineering (BioMED) 2006, Feb 15-17, Innsbruck, Austria, pp.200-205.

【国内学会／研究会・査読なし】

- ・ 南智規、酒井晃二、小山田耕二 2005 “特異点グラフを用いた2次元数値データの類似度評価手法”、2005年電気情報通信学会総合大会、予稿集 D-12-102、p.252
- ・ 南智規、酒井晃二、小山田耕二 “特異点グラフを用いた3次元数値データの類似度評価手法”、可視化情報学会、第33回可視化情報シンポジウム講演論文集2005、vol.25 Suppl. No.1、pp149-150
- ・ 小田切、広田、酒井晃二、小山田耕二 “特異点グラフとコンター木による類似度判定法の評価”、可視化情報学会、第33回可視化情報シンポジウム講演論文集2005、vol.25 Suppl. No.1、pp147-148
- ・ 渡場康弘、酒井晃二、小山田耕二、金澤正憲 “手書き文字認識技術を利用した特異点グラフの類似度判定” 可視化情報学会、第33回可視化情報シンポジウム講演論文集2005、vol.25 Suppl. No.1、pp127-130
- ・ 伊藤貴之、清豪、小山田耕二、酒井晃二、岩下武司、金澤正憲 “多次元パラメータ階層型データのためのパラメータ選択法”、可視化情報学会、第33回可視化情報シンポジウム講演論文集2005、vol.25 Suppl. No.1、pp131-134
- ・ 酒井晃二、東高志、小山田耕二、堤定美 “DT-MRI データセットを用いた神経線維路の可視化- 開始点の設定方法”、可視化情報学会、第11回ビジュアライゼーションカンファレンス、可視化情報 Vol.25、Suppl. No.3、VC11-7、ISSN 0916-4731
- ・ 井前直人、小林哲生、鄭址旭、酒井晃二、小山田耕二、東高志、堤定美 “fMRI/DTI による脳活動領域解析に関する検討”、日本磁気共鳴医学会雑誌 Vol.25、第33回磁気共鳴医学会大会講演抄録集、p.196
- ・ 酒井晃二、小山田耕二 “ボクセル分割内挿法による神経線維の可視化”、日本磁気共鳴医学会雑誌 Vol.25、第33回磁気共鳴医学会大会講演抄録集、p.248
- ・ 酒井晃二、小山田耕二 “脳神経可視化のためのテンソル場における退化領域探索手法”、情報処理学会研究報告、2005-CG-121 [グラフィックス CAD]、pp.43-48
- ・ 渡場康弘、酒井晃二、小山田耕二、金澤正憲 “方向線素特徴を利用した特異点グラフの類似判定法”、日本機械学会2005年度年次大会、講演論文集 Vol.7、pp.3-4、2005

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「自主研究ゼミナール」（前期、一般教養科目1回生対象）

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ 日本芸術科学会関西支部、会計幹事（平成17年3月より）